



国際化時代に対応する

親と先生の海外教育事情視察

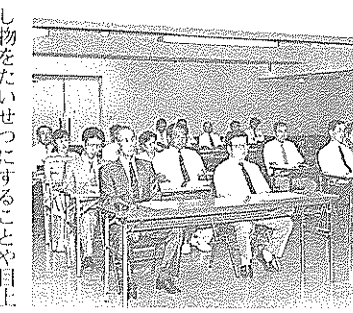
市内の小中学校の親と先生による海外教育事情視察が行われ、鈴江教育長を団長に総勢二十一人が五泊六日の日程でタイと香港を視察しました。

これは、国際化の時代に対応するとともに、本市の教育をグローバルな視点にたって見直し、あわせて親と教師の信頼関係を深めるために教育委員会が今年初めて実施したもので、市が費用の一部を補助。

団長が鈴江教育長、副団長が西山博史市PTA連合会副会長で、教師七人、父母十人などが参加しました。

出発前に三回にわたり事前学習会を実施。充分に基礎知識を身につけて八月二十二日に出発し、まずバンコクへ。日本人学校と現地

の教育ボランティア団体であるブラティープ財団、合併企業のタイ大丸を訪問。二十五日には香港に入り、日本人学校を視察し、二十七日に帰国しました。



8月20日には市役所で結団式

じめや非行は日本人学校にはない。これは、個が確立しているため、回りの子供が問題児に同調せず、はつきり注意をするからである。日本では個人より集団を重視しているが、個人を生かす教育も行われなければならない。

現地での交流を

もつと考える

西森善郎(事務局)



日本の恵まれた現状が子供たちのためになつていくのかということをまず考えさせられた。物が豊富になつたことによつて人と人とのつながりが希薄になつたのではないかと感じた。



現地の子供たちと手話で会話

スラムのなかで教育活動を行っているブラティープさんの献身的な活動に強烈な印象を受けた。どうしてかわからないが、厳しい現実にもかかわらず、スラムの住民には明るく、表情に笑いと誇りがある。参加者全員そのことは非常に強く心に残つたようだ。

日本人学校では、父母が日本に帰つたときのことを考え、勉強面で非常に強い期待を学校に持っている。また、香港は戦後の後遺症が反日感情が強い。今後解決していかねばならない課題であると思う。

走り走りではあつたが期待以上の成果があつた。来年は現地の人との交流がもつとできればと考えている。

先生と親との信頼感が考えていた以上に深まつたのが最も大きな成果。投資効果は十二分にあつたと思う。来年で再びと精選された企画で続けてもらいたい。



座談会 視察に参加して

タイの学校の発展

過程に教育の原点

司会 出発前の考えとそれについての感想を聞かせてください。

楠瀬 日本人学校の子供の様子が知りたかったのですが、残念ながら子供たちには会うことができませんでした。ただ、スラムの子供たちに会えたのは大きな収穫でした。

東森 その国の生活とそこに住む人の考え方や暮らしを知りたいという希望を持っていましたが、時間が取れなかったのが残念です。自分自身がタイ語を勉強していかなかつたことも反省しています。ただ外からでも生活を見ることが

出席者

東森昭日章小学校教諭
山崎雅史香長中学校教諭
荻野芳郎大湊小PTA会長
楠瀬憲子大湊小PTA副部長
オプザーバー
谷合左近子大湊小PTA副会長

できたことはよかったと思います。山崎 数年前から日本人学校で教本を執つてみたいと思つていたので運営方法や日本国内との違いに興味を持っていました。日本の教育課程と同じということで、自分が行つてもできるなと思ひました。

司会 視察をしてどんなことを感じましたか。

楠瀬 若いブラティープさんの愛情を基本に自信に満ちて信念を貫いている姿に感銘し、人間をつくる教育がいかに大事であるかを考えさせられました。また、子供たちが先生を尊敬していることを強く感じました。

東森 私は戦前、戦中、戦後を経験しているの、人間としての心のつながりについて非常に考えさせられました。あのころは人間らしい心がありました。その後日本では一定水準の生活を勝

父母と教師の信頼感深まる

帰国子女の経験が

生かせる社会に

山崎 外国と日本という環境の違いだと思ひますが、日本人学校には自分の考えをはつきり言える子

ち取つてきたのですが、資本主義の発展のなかでその心をどこかに置き忘れてしまつたのではないのでしょうか。確かにタイは物質面では豊かでないが、人間らしさと明るさがあります。それは日本でもたいせつにしなければならぬことだという思いを強くしました。

山崎 タイの子供たちは何のために勉強しているのかを理解し、喜々として学校へ行き勉強しています。子供たちが勉強することの意義を理解するというのはたいせつなことだと思います。

十年後のタイは変わつていくと思いますが、今の気持ちをもち続けていけばよいと思います。

東森 ブラティープ財団の学校は、周辺の環境に比べてたいへんりっぱな建物です。人間の自立のためにはまず教育が必要であるという行政者の姿勢が表れていて、素晴らしいと思います。

荻野 財団の学校の発展過程に忘れかけたもの、教育の原点を見たような気がします。

子供が多いですね。日本の教育にもその点は取り入れていかなければならないと感じました。あの子供たちがどのように成長するのか、日本に帰つてどんな役割を果たしてくれるのか楽しみです。また、帰国子女が経験を生かしていけるような世の中になければならないと考えています。

荻野 日本人学校の子供は先生の面では恵まれています。また、伸び伸びと国際感覚を身に着けて育っています。

東森 香港の日本人学校で中国系の学校と交流できないという話がありましたが、それは日本人の閉鎖的な態度に問題があるのであつて、現地では決して受け入れていないのではありません。かえつてともに伸びようという考え方が見受けられました。

山崎 しかし、日本人どうしが固まらざるを得ない状況もあるのではないのでしょうか。日本語文化といるのは日本だけでしか通用しないのです。全然知らない人たちと交流する気持ちになれず、日本人サークルに入る気持ちもわかりません。

司会 一番の成果はどんなことですか。

楠瀬 実際に体験できたことは大きな収穫でした。他の学校の先生や父兄と交流できたことも大変有意

義がありました。

山崎 自分の視野を広げることができたことが一番の成果。見方を変えて自分を見つめ直すことができました。

東森 回りが見知らぬ土地であるということも手伝つて他の学校の父母や先生と連帯感や交流が生まれました。忘れていた大事にしなければならぬことに気付いたことも一つの収穫です。

司会 今後この成果をどのように生かしていきたいと思いますか。

荻野 この視察の報告の場として文化祭で写真などの展示やビデオの上映をしたいと思つています。

谷合 今市内の学校は横のつながりがなく、ばらばらです。これを機会に交流が自然にできるようになればと希望しています。

東森 今回の視察でも学校の壁がかなり取り払われました。今後もし続けていくのであれば、第一回目である私たちがつながりを持ち続け、二回目、三回目と徐々に広げていきたいと思います。

司会 今後改善していけばよいと思ひれるのはどんな点ですか。

東森 観光とは違つた成果があつたことは評価できますが、できればその国の人と話をし、生の声を聞くことができるような場を設定してほしいと思います。